

日本に活火山がいくつあるか？



東京大学名誉教授・客員研究員 荒牧重雄

1 日本に活火山がいくつあるのか知っていますか？

答えは、「だいたい90から100」です。

なぜ、「94」とか「98」とかはっきりした数でわからないのでしょうか？

いろいろと問題があるのです。

少し考えてみましょう。

2 まず、「活火山」を定義する必要があります。これが案外むずかしい。

火山を専門に研究している人を「火山学者」と呼びます。実は私自身もその一人ですが、世界中の火山学者にアンケートをしました。「あなたは活火山をどう定義しますか？」すると、おどろいたことに、「2・3年以内に噴火した火山」という答えから、「1万年以内に噴火した火山」という答えまで、たいへんな幅がありました。「活火山をどう定義するか私は興味を持たない」と答えた火山学者もありました。ぶ厚い火山学の教科書を開いてみますと、意外なことに「活火山」の定義をはっきり書いてある本があまりないのです。

活火山以外にはどのような火山があるのでしょうか？

「休火山」と「死火山」という言葉があります。

「死火山」というのは、地下にマグマが存在しなくなって、噴火する能力がなくなってしまった火山と定義できます。「休火山」はどうでしょうか？「今は噴火していないが、過去に噴火した記録がある火山」という定義はどうでしょうか？ところが、国により、地域によって、歴史的な記録がさかのぼれる年代がちがいます。例えば、日本では1000年以上前から記録がありますが、アメリカでは300年もさかのぼれば、書かれた記録はありません。休火山という概念は厳密な火山学的定義にはそぐわないもののようです。

3 日本には気象庁という役所があって、火山の活動状況を観測し、監視する業務を行っています。火山噴火によって引き起こされる災害を防ぐには、まず活動的な火山を選んで監視する必要があります。活動的な火山＝活火山でしょうから、気象庁にとっては「活火山」の定義は重要です。

気象庁は、学識経験者の意見にもとづいて、活火山を次のように定義しています：

- ① 過去およそ2000年以内に噴火の記録があるもの
- ② 噴気活動が活発なもの

このような定義にそって日本中の火山を数えますと、86個の火山が「活火山」に相当します。ただし、ロシア国

と領土問題で論争中の北方四島に10個の「活火山」があるので、現在日本国民が自由に訪れることが可能な「活火山」は76個になります。

4 ここでおわかりのように、2000年という数字は人間が勝手に決めたもので、火山学的な意味はありません。何しろ火山の一生は数万年から数十万年ですから、1000年くらいの違いが大したものではないことは明らかです。

最近では、2000年の過去までさかのぼるだけでは十分ではない...という意見が出てきました。例えば、いっ

そ1万年前まで噴火の記録をさかのぼれば、将来の火山災害に対して、より効果的にそなえることが出来るだろう...という考えです。

もし1万年前までさかのぼると、日本の活火山の数は100を少し越えるかも知れません。

こういうわけで、「日本の活火山は90から100くらい」という、ややあいまいな言い方になるのです。あいまいな表現が必ずしも真実から遠いことにはなりません。むしろ、正しく理解しないで機械的に数字を暗記することの方がよくないと私は思います。

みなさんどう思いますか？



箱根から見た富士山